

(3)體位ハ肺容量ノ構成ヲ變化スルモノニシテ坐位ニ於テ最大肺容量中位量殘氣何レモ増大シ呼吸ハ著シク吸氣位ヲトル。

(4)身體動作時ノ中位量ハ動作開始直後縮小スルモ少時ノ後明カニ平時ヨリモ擴大ス。

(5)運動選手ノ肺活量、最大肺容量、中位量何レモ一般健康者ヨリ大ナレドモ殘氣ハ殆ンド差異ナク、從ツテ最大肺容量ニ對スル殘氣ノ比率ハ著シク小ナリ。

(6)循環機能不全、濕性肋膜炎、氣胸、腹膜炎、貧血症、パセドウ氏病ニテハ一般ニ最大肺容量及ビ肺活量ハ著シク縮小スルモ殘氣ハ寧ロ大ナルモノ多シ。但シ濕性肋膜炎ニテハ殘氣亦小ナリ。而シテ最大肺容量

ニ對スル殘氣ノ比率ハ全例ヲ通ジテ大ナリ。

(7)強心劑ハ循環機能不全症ノ肺活量ヲ増大シ中位量及ビ殘氣ヲ縮小セシム。

(8)自律神經毒ノ作用ニ就テハ實驗例尙少數ナレドモ「アドレナリン」ハ肺活量ヲ縮小シ中位量ヲ増大セシムルモノ、如シ。

要之身體動作ニ當リテ呼吸困難ヲ訴フル事少キモノニ於テハ呼吸構成大ニシテ呼吸亢進ニ對スル適應範圍大ナルト共ニ殘氣量比較的小ニシテ肺臟内瓦斯交換能率ノ良好ナルニ反シ呼吸困難ヲ訴ヘ易キ患者ニ於テハ適應範圍小サキノミナラズ殘氣量比較的大ニシテ換氣能率不良ナリ。
(相澤秀抄)

會報並雜報

○三月中新入會者

小 原 正 生	札幌市南七條西五丁目	岩 田 鎮	東京帝國大學坂口内科
小 川 朝 吉	東京市中野區江古田東京市療養所 醫局	安 宅 進	石川縣河北郡津幡町
石 田 吉 治	仙臺市東北帝國大學熊谷内科教室	橋 本 德 次 郎	京都府立醫科大學飯塚内科
糟 屋 伊 佐 久	東京市芝區白金三光町北里研究所	見 谷 勇	北海道帝國大學醫學部有馬内科
永 井 立 一	東京市淀橋區上落合二ノ七三八	中 島 紀 行	東京帝國大學附屬病院島蘭内科
小 久 保 雪 江	東京府北多摩郡千歲村至誠會病院	岩 崎 治	大阪市西淀川區海老上一丁目五七 有馬研究所
若 宮 英 三	仙臺市東北帝國大學熊谷内科教室	山 崎 政 治	石川縣金澤市田丸町一三一
笹 生 菊 夫	同 上	今 泉 透	北海道帝國大學醫學部中川内科
松 田 一 眞	朝鮮黃海道立海州醫院		

○會員ノ計

左記會員ノ計報ニ接ス謹テ弔意ヲ表ス。 合 田 平

第 13 卷第 3 號中川諭氏中川誠一氏論文正誤表

頁	行	誤	正
198	19	コッホ氏菌ニ比シテ強ク	コッホ氏菌ニ比シテ弱ク